
再会・・・そして出会い

菜緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

再会・・・そして出会い

【Nコード】

N0634A

【作者名】

菜緒

【あらすじ】

偶然的に再会した美咲と瑞希。いい雰囲気だった二人の心が徐々にはなれていく。そして、新一と美咲の関係は・・・どうなる？

第一話 再会

第一話 再会

暖かい日差しの中、やわらかな風にふかれ、桜の花びらが気持ちよさそうにふってくる。

ここは、とある横浜の小学校。その廊下を先生と一緒に歩く一人の少女がいた。

そして、『6年2組』というふだのかかった教室に足をふみいれる。

「ガララッ・・・ ハイ、みんなー席について！今日は転校生を紹介します。」

「えっ？転校生！？」

「うそうそ！どんな子？」

「可愛い子だといいなあ」

そんな生徒たちの気持ちのよそにその転校生はひどく緊張していた。

【ああ・・・ドキドキするなあ。友達できるかなあ・・・】

「はっ はじめまして、若草小学校から来ました。宮本美咲です。よろしく願います。」

その少女は少し控え目に自己紹介をする、ほかの生徒は、みな美咲に見とれていた。

それもそうだろう。美咲はロングヘアの二重に、雪のように白い肌なのだからだ。

そして、目を引くほどの美人。これに見とれない人はいないだろう。

でも一人だけ、見とれずに考えこむ少年がいた。その名は水野谷瑞希。

【宮本美咲？ あれ・・・たしかこの名前どつかで・・・えつとどこだっけ？】

「ハイ、じゃあ宮本さんの席は水野谷くんの隣。そうそうあそこね、じゃ授業始めるよ。」

その担任のかけ声とともに、美咲の頭には何かが引つかかった。

【えっ？水野谷瑞希！？待ってよ・・・この名前どこかにいたような気がするなあ・・・】

こうして美咲と瑞希はそれぞれ同じことで悩んでいた。

授業中・・・日本史の教科書には目もくれずに美咲は窓の外を眺めていた。

そして、瑞希は、美咲の方をチラチラ見ては、考えこんでいる。

【宮本美咲、宮本美咲、宮本・・・ああーだれだったかな？】

【水野谷・・・えーつとえーつと・・・あつ！思い出した！】

キンコンカンコン・・・

美咲のひらめきとともに授業終了のチャイムが鳴った。

美咲は早速、瑞希に歩み寄り、

「ね、ねえ？瑞希 くんだよね？ あたし、美咲。覚えてる？ ホ
ラ、若草小学校で同じクラス
だったよね？」

「えっ・・・あ、そうか宮本って そうだったんだ、どっかで会っ
たことあるなあって思ってた

んだよなあ。」

そう、この二人は小学校が同じだったのだ。 でも、それだけでは
ない。 2人はお互いのことが

大好きでよく小さいころから一緒に遊んでいた。そして、遊ぶたん
びに、

「ねえ？瑞希くん！大きくなったらぜったいに結婚しようね！！」

「うん。もちろんだよ美咲ちゃん！」

と言いつつていたのだ。でも、瑞希は父の転勤で先に隣の市に越してきた。

そしてそこへ偶然的に美咲も越してきた。という訳なのである。

「久しぶりだねっ！えつとお5年ぶりくらいかなあ？でもなんか、かつこよくなった？

そんな気がする。」

性格が素直な美咲は思いをありのままにうちあける。それに瑞希も

「ああ、そうだな。1年の時越してきたから、ちょうど5年ぶりだな。でも、何だおまえ！

全然変わってねーじゃんかよお。」

とは言いながらも、内心ではひどくおどろいていた。小さいころから可愛かった美咲が

こんなに美人になっているとは予想もつかなかったのだ。

一方美咲もずいぶんと大人びた瑞希に目をひかれていた。

【瑞希くん本当に大人っぽくなったなあ・・・これだったらモテモテなんじゃないの？】

その時

「ちょっとそのあなた！わたしたちの瑞希様に何をしてるの？」

「えっ！？瑞希さまあ？」

突然、約30人を引きつれた一人の少女がこちらに歩み寄ってきた。そして、するどい目で美咲

をにらみながら

「あら、どのだれかは知らないけれど、瑞希様と二人だけで話すなんていい度胸してるじゃな

い。このあたし、大城花菜実の前でそんなことしていいと思ってるのお！？」

と言い美咲を瑞希の前でつき飛ばした。

「いたたた、何もつき飛ばさなくたっていいじゃない！それ以前に、あなただれ？」

美咲はかまわず反抗する。こう見えて実は強い度胸の持ち主なのだ。

「あら！あたしを知らないなんていったいどの何様のつもり？」

あ、でもあなた転校生よね

？なら知らなくっても無理ないわ！あたしはこの学校の生徒会長、大城花菜実ですわっ！おぼえ

ておきなさいよっ！！あと、瑞希様とふたりつきりではなすなんてもう絶対にするんじゃないわ

よっ！」

と言に残し、ツカツカと歩き去っていった。美咲は瑞希に向き直り、
「やつぱり、モテるのね！その顔じゃあ無理ないけど・・・でもあんなのが生徒会長だなんて

この学校どうなってるの？」

瑞希はつかれた顔をして、

「まったく毎日休み時間はくるんだぜ、アイツら。勝手にファンクラブとか作りやがって・・・

生徒会長選挙の時にアイツ、女子ほとんど味方に付けて投票させたんだ。だからこんな結果

ってわけさ。まったくまいっちゃうよ」

その日の放課後

帰り仕度を終えた美咲が帰ろうとすると、後ろから瑞希が

「なあ、美咲！道、あんまよくわかんねーだろ？今日は送ってってやるよ。住所、言ってみ？」

美咲は瑞希に美咲と呼ばれ一瞬ドキツとしたがあらたまって、

「あら、ありがと！やさしいのね。あたしの住所は花坂町、3丁目の2番地、12の赤い屋根の

家だよ！」

「え？そこでもしかして、隣に青い屋根の家があるところ？」

「あ、そうそう！知ってるの？」

「いや、知ってるって言うか・・・そこ、オレンちなんだけど・・・

」

そう、美咲の家の隣は瑞希の家だったのだ。

「あ、だったら毎日一緒に通えるじゃない！そういえば引っこしの挨拶、今日の予定だったから

まだ知らなかったのよね。じゃ、行こっか！」

その日の夜

美咲の家族、父、母、美咲、妹は水野谷家に挨拶に言った。久しぶりだったので、父同士、

母同士、妹弟どうしでも話が盛り上がり、もちろん美咲と瑞希も楽しいひとときを

過ごした。でも、これから起こる恐ろしい出来事は、今は誰も予想できてはいなかった。

第一話 再会（後書き）

この作品、第一話はとっても軽やかにテンポよく作れました。美咲と瑞希が再会し、変わった生徒会長が現れ、家も隣同士になった二人が、これからどうなるのか・・・第二話ではタイトルにもあるように美咲に『出会い』があります。どうぞ、おたのしみに！ 感想お待ちします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0634a/>

再会・・・そして出会い

2011年2月1日15時20分発行